



蔵 DE Books
としよだより

ほんとしおり

Vol.8

2018年3月発行
最終刊

今日も月は

お疲れさまとただいまの間。

ふと見上げた東の空。

月は空の孔。だなんて、

言ったのは誰？

ずっとここで待ってたの。

さあさあ、

午後のぐるぐるを吐き出して、

宇宙の空気を吸いなさい。



人気がない農道。

車を降りて、深く息をした。

冷たい風がさあっと流れ、

林の木々を揺らしていく。

もの言わぬ道標。

畑の菜っぱについた露。

夕闇に溶け込む山の稜線。

私が生まれる前から、

変わらずそこにあるものたち。

それら全部が一つに溶けて、

私の一部、そして全てになる。

ああ、そう。

わたし。いま。ここにいます。

それは何億年も昔からの約束――

さあさあ、早くお帰りなさい。

あったかいみそ汁が待ってるわ。

今夜も暖かくして眠るのよ。

車に乗り込むと、月はいつもの澄まし顔。

アクセルを強く踏むと、

エンジン音は冷気を貫き

どこまでも遠くへ響いていた。

これにてお別れ!

さよなら
「ほんとしおり」

「ほんとしおり」は今号で最終刊となりました。そこで、企画・執筆・編集を担当したメンバーからのコメントを紹介します。

さよならの数だけ人は成長できる。
そして、新しい春へ!

「ほんとしおり」も早いもので8号。思い返せば、ビブリアバトルや朗読会の開催、ほんとしおりの記事を書くためお宅訪問をしてインタビューしたり…。この活動をしていなければできなかった体験、出会えなかった人がいます。ありがとうございました。(やよい)

四コマ漫画を描かせていただきました。
どのくらいの人に読んでもらったのか分かりませんでしたが、私の漫画でたった一人でもクスツとしていただけたのなら嬉しいことです。
短い間でしたが貴重な経験となりました。ありがとうございました。(kana)

取材に行ったり、みんなで料理したり、朗読会をやったり。面白くて貴重な経験が沢山でき、とても濃い3年間でした。大変なこともあったけど、その先に読んでくれる人がいることが励みになって、少しでも楽しんでほしいと思いながら作りました。

取材に協力してくださった方々、突撃にも関わらず、置いてくださったお店の方々、そして読んでくださった皆さん、ありがとうございました。

そして毎回へこたれず一緒に作りあげたみんな、お疲れ様でした!(やまね)



12 蔵のイベント情報

11 1000の思考実験
としよがかりの声③「チヨコットカフェ」

10 としよがかりの声②
「『ダイダラ坊の足跡』とその考察」第三回

8 としよがかりの声①
「旅×本」第五回 群馬の温泉旅行
〜草津でも伊香保でもなく

6 文学ヒーローに恋して
夏目漱石『虞美人草』より「宗近一(はじめ)」

4 蔵DE Night: 2017開催しました!

3 これにてお別れ! さよなら「ほんとしおり」



蔵 DE Books としよだより

ほんとしおり

Vol. 8
2018年
3月号
最終刊

今日も月は

72分の1の、こんにちは。

第9候
3月15日〜3月19日頃
【菜虫化蝶】
なむしちようとなる。畑を荒らす害虫が蛹となり、やがて美しい蝶と生まれ変わるドラマティックな光景に春の訪れを感じる。旬のさかなはアサリ。どこの干潟でも手で漁れば気軽に獲れること。日本でも最も馴染みのある貝の一つで、みそ汁、酒蒸し、佃煮、バター焼きなど調理の幅が広い。旬のやさしいは芹。春の七草の筆頭にある。茎から競り合うように根を下ろしている。爽やかな香りと歯触りで和食に重宝される。お浸しや汁物の他、すき焼きの具にも。

《参考書籍》「くらしのこよみ」
うつくしいくらしかた研究所/平凡社

日本の四季には24の節気と、72の諸侯があります。日々の小さな変化に耳をすますと、季節の足音がそっと聞こえてきます。

～ほんとしおりについて～

2015年秋に矢板武記念館の東蔵にてオープンした蔵DE Booksを、たくさんの人に親しみをもって利用してほしいという思いで作っています。

蔵DE Booksの管理、運営をしているとしよがかりメンバーによる自由気ままな読み物や、本にまつわるあれこれ、そして蔵のイベント情報を楽しく元気にお届けいたします。

本にしおりをはさんだら、一息ついて次は何する?



蔵 DE²⁰¹⁷ Night!!

開催しました!



文 やまね
写真 凜

に走り回る子供達。キャンドルを眺めながらのんびり過ごす人。思い思いに過ごす人達を眺めるのが毎年の楽しみとなりました。大変な事、思うようにならない事もあるけれど、自分たちで心を込めて作り上げてきたことが、誰かの心を暖かくする。そして、その誰かが他の誰かの心を温める。そんな素敵な流れを感じ、今年も開催できて良かったと思うのでした。

今回は新しい試みもあり、メンバーがそれぞれの得意なことを発揮。このイベントを盛り上げるために心を一つに頑張りました。みなさん、お疲れ様でした。

そして、今年4月のしだれ桜のお客さんで、イベントのお手伝いが出来ればとありがたいお声かけをしてくださったNさんご夫妻にキャンドル点灯のお手伝いをお願いしました。こういう繋がりが出来たことが嬉しいですね。Nさんご夫妻、ありがとうございます!

また、ご支援、ご協力をしてくださった方々、記念館まで足を運んでくださったたくさんの方々にお礼申し上げます。ありがとうございます。また次回も素敵な夜になりますように。

矢板の休日
どこに行く?



日が沈むにつれ
変化する
キャンドルの灯



記念館がキャンドルの
優しい灯に包まれる



写真で
振り返る
蔵 DE
Night!!
2017

詩と音楽に
うっとり



お疲れ様
でした◎



使ったキャンドル
を集めて



今年ももりだくさん◎

今年のテーマ「矢板の休日」にちなみ、蔵*武 project メンバーおすすめの「矢板の休日おすすめのスポット」を展示。それから、昨年引き続き矢板で本格的なピザを味わえる名店・ヴィア・ナポリさん特製の焼き菓子や、好評のグランディールさんのパンの販売。矢板ウインドオーケストラによる木管アンサンブルさん。そして、プログラムの終了後にはクリスタルボウルの演奏も特別に行われ、盛りだくさんの内容となりました。

朗読会も頑張った◎

そして、私たち蔵 DE Books としよがりも、3月の文学喫茶に続き、朗読会を行いました。テーマは秋にぴったりの「月にまつわる詩」。中原中也や北原白秋、金子みすゞらの詩から、メンバーが読んでみたい詩を厳選。絵心あるメンバー、kanaさんが描いた詩の世界をイメージした絵を蔵の白壁に映して。音楽もメンバーが詩に合うものを流しました。本番は緊張してうまく読めない部分もありましたが、お客さんから「良かったです」と温かい言葉を頂いたのが嬉しかったです。

五回目を迎えて…

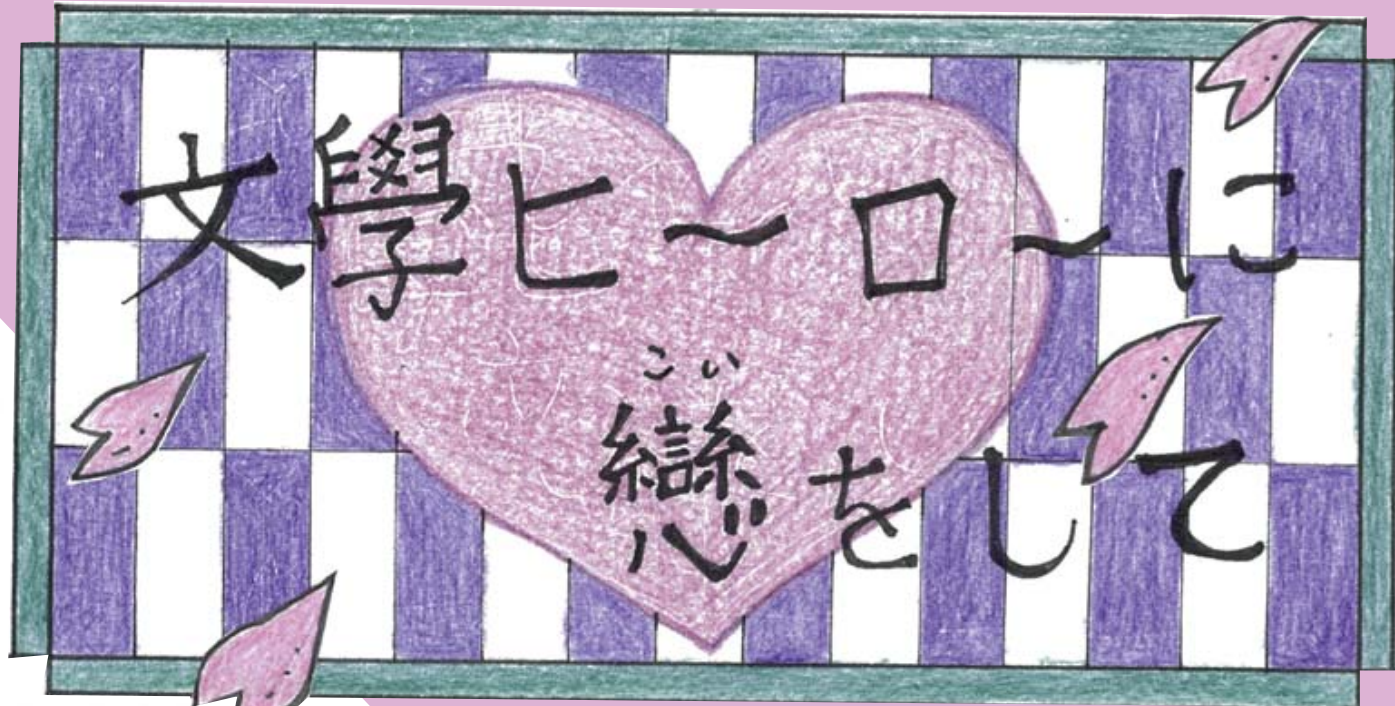
今年で五回目。初めは不安ばかりでしたが、庭で楽しそうにおしゃべりする人達や、元気



夏目漱石「虞美人草」より
宗近 一（むねちかはじめ）
28歳 外交官



「僕は君を尊敬して
いるから救いに来た。
此所だよ君、
真面目になるのは」



文 kana

何年も外交官の試験に落第し、周囲の評価は「のん気屋、お気楽の鉄砲玉、趣味のないひと」などと散々ですが、これとはまた違う、彼の真の姿があるのです。神経衰弱の友人をおもい彼を憂さ晴らしの旅行に連れ出したり…、妹のほのかな恋心を感じ取り相手男性へ掛け合い結婚成就させたり…、旧友の、許嫁への裏切りに対しあたたか味をもって道義を説き責任を取らせたり…と、大切な人のために奔走します！いかがでしょうか。こんな男気溢れる宗近様に心奪われて今日もまた「虞美人草」に酔いしれます。



ムネチカ
くしゅん

旅 × 本

群馬温泉旅行～
草津でも伊香保でもなく～
文 やよい

今回の旅は、栃木からほど近い温泉王国・群馬県。距離的には近いはずですが、海に心惹かれるあまり、今回が初の観光となりました。

一日目

まずは、群馬県伊香保にある榛名山へ向かいました。紅葉も終わりに近づき、冬の気配が色濃い榛名湖へ。寒さに負けて早々に立ち去りました。湖にたたずむ白鳥ボートはまたの機会に。

少し早い昼食に、群馬三大麺の一つ「水沢うどん」をいただきました。不思議な形のざるに乗ったうどんと、巨大なマイタケの天ぷら。シンプルな内容ですが、お腹はたっぷり満たされました。

そして、「おもちゃ博物館」へ。たくさんのおもちゃや昔懐かしいおもちゃがたくさん。車も展示されていました。藤原豆腐店の店構えとハチクロクが。駄菓子屋さんがあったので、連れといっしょにいろいろ買いこんでしまいました。そして、いよいよ旅のメイン温泉宿に。今回宿泊したのは、水上温泉。草津と伊香保の予約がいっぱいだったので消去法で選んだのはナイショ。夕飯もたっぷりいただきました。

おもちゃ博物館



上から：昭和の面影 /
ハチクロク / 戦利品の駄菓子 /
たくさんのおもちゃ

二日目

水上温泉を出発して、まず向かったのは萩原朔太郎記念館。朔太郎の生家の一部が移設展示してあります。車のナビで検索して向かったところ…なんと！「萩原朔太郎記念館は移設しました」の看板が…。きれいなバラ園を見て今度こそは！くるくるくるくる同じ場所を回ります。ナビなんて嫌いだ！前橋文学館と萩原朔太郎記念館を見学してきました。

さあそろそろ帰宅かな？という感じですが、せっかく群馬に来たので、近年世界遺産に登録された「富岡製糸場」に立ち寄ることに。外国人観光客の多さ、展示の質の高さにびっくり。生まれて初めて生きている蚕を見ました。絹製品の生産工程を見ると、価格が高いのはしょうがないかと納得。

そんなこんなでまったりと終わった今回の旅行。たまには、のんびり旅も素敵ですね。

文学と
歴史と

美味しい
料理



上から：前橋文学館 / 思いがけず立ち寄ったバラ園 /
萩原朔太郎記念館 / 富岡製糸工場

下：広瀬川



『ダイダラ坊の足跡』

とその考察

第三回

文 小町

ここまで、『ダイダラ坊の足跡』を通して柳田が日本の巨人

に対してどのように考えていたかを追ってきた。ここからはそれを踏まえて冒頭に触れた巨人の役割について自分の考えを示したい。

それは、柳田の『ダイダラ坊の足跡』に関連していて、「国を作る、土地を作る」ということである。

日本のイザナギ、イザナミの話や、キリスト教創世記の「天地創造」といったようなものである。こういった話は世界各地で見ることが出来る。このような話がさまざまな地域で見られるということは一般的に考えると不思議である。なぜなら、その話が作られた当時、インターネットでつながる現代とは異なる

り、すべての地域が繋がっていたわけではないからである。もしかすると本当に巨人が存在していて各国を渡り、それぞれの場所で作っていったのだろうか。いずれも根拠はないのだがこの巨人の話には想像力を掻きたててくれるチカラがあるのだろう。本を読み進めるうちに自身の地元にもダイダラボッチの神話があったこと、世界中で巨人の伝承があり、そのなかにはダイダラボッチとおなじような機能を持つ者もいるということが分かりとても興味深い考察となった。

参考文献 柳田國男 『ダイダラ坊の足跡』

おすすめ 本

『100の思考実験』
ジュリアン・バジーニ 著
紀伊國屋書店



理性を伴わない想像力はただの空想だが、想像力を伴わない理性は無味乾燥である。だからこそ、科学者・哲学者たちは想像力を駆使し、様々なたとえ話によって思考力を強化していった。そうした「思考実験」の目的は、実際の世界から様々な要素を取り除き、直面する問題をシンプルにとらえようとするところにある。

ハーバード白熱教室でも取り上げられた「列車の暴走で40人が死にそうとき、5人だけ死ぬ方にレバーを切り替えられるとしたらどうするか？」などの有名なトロッコ問題をはじめとした、先駆者たちの思考ツールを100編収録している。時間が空いた時に手に取れば、いつの間にか問題を考えるのに没頭してしまう。それほどまでに興味深い思考実験に100回も挑戦できる名著だ。(小町)

としよがかり の声③



文 やよい

日々の慌ただしさに追

われて、なかなかカフェに行けない。最後に、ゆっくりとお茶を楽しんだのはいつの事だろう…。

ということ、カ

フェっぽい活動をするため、自宅で身内だけのプチ・ティーパーティーを開きました。

紅茶とお菓子を用意して、ゆっくりのんびり会話を楽しむ。そんな時間もたまにはいいですね。ちよっぴり甘いものを食べ過ぎた気もしますが、明日からまた頑張ろう。



小さな蔵の映画祭

3/31(土) 『ホテル』(114分)

5/26(土) 『あなたへ』(111分)

場所：矢板武記念館西蔵

開場：10:00 上映開始：10:10

蔵*武 project

の活動の詳細は、

こちらをチェック→



ご案内

蔵の
イベント
情報

本だけじゃない!!



思い起こせばちょうど3年前。
蔵 DE BOOKS が始動して、活動の様子を知ってほしい、本と本の周りの楽しさを共有したい、良いものを「持つてる」としよがかりの個性を引き出したい、そんな思いで「ほんとしおり」はうまれました。
印刷以外は全て手作り。素人くさいけど、そこがウリだと開き直ってはいいたけれど、企画、取材、執筆、編集、校正、印刷発注、配布、そしてまた次号の企画と、寄せては返す波のように(?) やることが次々にやってきて、てんやわんや。毎回いろんなドラマがあり、なかなか濃い3年間となりました。
こんなハードなことを我々素人が3年も続けた理由。それはきつと読んでくれた人がいたから。そして何より自分達が楽しめたからなんでしょうね。
辛いことも楽しいことも、やがては美しい思い出に...
これまでお付き合いくださいました読者の方々、ありがとうございます!